

朝河貫一と

シンポジウム

日本中世史研究の現在

講演

■ 佐藤雄基（立教大学文学部准教授）
日本の中世史研究からみた『入来文書』

■ 似鳥雄一（早稲田大学文学学術院助手）
越前牛原荘の研究と朝河

■ 中村治子（イエール大学東アジア図書館 日本研究専門司書）
朝河の史料収集および朝河文書の紹介

パネルディスカッション

海老澤衷（司会、早稲田大学文学学術院教授）
佐藤雄基、似鳥雄一、中村治子、
近藤成一（東京大学史料編纂所教授）
甚野尚志（早稲田大学文学学術院教授）

主催 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「近代日本の人文学と東アジア文化圏—東アジアにおける人文学の危機と再生」
総合人文科学研究センター研究部門「トランスナショナル社会と日本文化」
スーパーグローバル大学創成支援事業・日本文化学拠点
角田柳作記念国際日本学研究所

後援 朝河貫一研究会

Kan'ichi Asakawa papers, 1894-1994 (inclusive),
1894-1955 (bulk), Manuscripts & Archives, Yale University

12/5 SAT
2015. 14:00~18:00

早稲田大学小野記念講堂

参加無料・予約不要

問い合わせ先

早稲田大学総合人文科学研究センター

Tel.03-5286-3526

朝河貫一と 日本中世史研究の現在

Program

趣旨説明

14:00～14:10

海老澤 衷

講演1

14:10～14:50

日本の中世史研究からみた 『入来文書』

佐藤 雄基

講演2

14:50～15:30

越前牛原荘の研究と朝河

似鳥 雄一

講演3

15:30～16:10

朝河の史料収集および 朝河文書の紹介

中村 治子

パネルディスカッション

16:30～18:00

海老澤 衷(司会)、佐藤 雄基、似鳥 雄一
中村 治子、近藤 成一、甚野 尚志



Photograph by Patrick Lynch, Yale University

開催にあたって

趣旨 イェール大学教授朝河貫一(1873-1948)の先駆的な日本中世史研究の意義を再評価し、欧米と近代日本の人文学形成を広い視野から検証する。

略歴 朝河は1873年(明治6)福島県二本松に生れ、福島尋常中学校(のちの安積中学校)卒業後、東京専門学校(早稲田大学の前身)文学科に入学。1896年にはダートマス大学に編入学し、1899年にイェール大学大学院歴史学科に入学。『六四五年の改革(大化改新)の研究』(英文)によりPh.D.ダートマス大学講師を経て、1907年イェール大学講師。イェール大学図書館東アジアコレクション部長兼任。1917年(大正6)東京帝国大学史料編纂所に留学。1937年イェール大学歴史学教授。1942年定年退職、名誉教授。1948年(昭和23)8月11日に没す。

概要 一般に朝河の国際的な平和実現への努力が高く評価され、すでに多くの研究があるが、今回のシンポジウムでは、彼の学術的な側面に立ち返って、いわば原点からの再評価を行う。その場合、主要著書は『入来文書(The Documents of Iriki)』(英文、1929年。和文、1955年)と『荘園研究(Land and Society in Medieval Japan)』(英文、日本学術振興会、1965年)の二冊であろう。これらは、フランス中世農村史の研究者、あるいはアナール学派の祖として知られるマルク・ブロックとの交流の前提となったものでもある。今回は朝河の主要な研究フィールドであった薩摩国入来院と越前国牛原荘を取り上げ、学ぶべきものを明らかにする。さらにイェール大学図書館所蔵資料から朝河のキュレーターの側面に焦点をしぼり、その学術的な基盤を明らかにしたい。

会場へのアクセス

早稲田大学 小野記念講堂

◇JR山手線・西武新宿線

高田馬場駅から徒歩20分

◇東京メトロ

東西線 早稲田駅3A・3B出口から徒歩5分

◇都営バス

高田馬場 早大正門行き(学02) 早稲田正門バス停から徒歩1分

◇都電

荒川線 早稲田駅から徒歩5分